

第1回理事予定者会議 議事録

一般社団法人 尾道青年会議所
2022年度 第1回 理事予定者会議議事録

日時：2021年 9月 9日 (木) 19:00～

場所：オンライン開催 (ZOOM)

(出席者)

今岡正英・安楽城大作・島田元太・高升純・吉田雄太・歌一行・高橋建太・加藤雅崇・村上康・村橋聡・大池慎三・平岡良之・内海洋平・村上直弘・加藤雄大・半田祐喜・小西琢真・沼尾一・島田昌広・大西貴明・中島裕一郎・高垣悟・安保大輔

(欠席者) なし

(遅刻) なし

(早退) なし

次第

1. 開会：(大西貴明)
2. 点鐘：(オンライン形式での開催のため割愛)
3. JCI クリード唱和：(オンライン形式での開催のため割愛)
4. JCI ミッション並びに JCI ビジョン唱和：(オンライン形式での開催のため割愛)
5. JCI 宣言文：(オンライン形式での開催のため割愛)
6. 出席者の確認：(中島裕一郎)
7. 配布資料の確認：(大西貴明)
8. 議事録署名人並びに議事録作成者の氏名：(今岡正英)
9. 議題の確認：(大西貴明)
10. 理事長予定者挨拶：(今岡正英)

本日は第一回理事予定者会議にお集まりいただきありがとうございます。

本来ですと新理事の皆様と顔を合わせての開催、という予定でしたが、緊急事態宣言下ということですので ZOOM 開催となっています。少しやりにくい部分もあるかと思いますが、お互い顔を合わせているつもりで質疑応答・意見を交わしていきたいと思います。

今回も昨年同様、第1回と第2回の理事予定者会議を1つにまとめております。その関係で本日、理事会構成図だけでなく委員会構成図まで審議案件となっております。所管業務の審議もございますので気にかかる部分につきましてはご質問頂きたいと思っております。

なお、セクレタリーの安保君・高垣君にも理事会に同席頂きますので宜しくお願い致します。

では、最初に所信について、私の考えを皆さんにお伝えしたいと思います。

読み上げはしませんので、詳細については各自でご一読ください。

第1回理事予定者会議 議事録

所信の根本にあるものは、まちへの貢献、まちの人への貢献です。

近年は対外的な事業を実施しづらい状況なので仕方ないかもしれませんが、本来青年会議所は、もっと人助けになるようなこと、未来に繋がるようなことを生み出していく団体であるべきです。所信の中にも書きましたが「JCは何をしているのか」と問われてしまうと、まだまだ足りていないとってしまいます。内々で行う事業も必要ですが、メインはやっぱり対外事業ですね。困ったところに手が届く、期待に応える、そういった団体でありたいと思っています。

テーマは「守 破 離」としました。

根本にあるのは先ほど述べた通りですが実際行っていく上での心掛けとして守破離という精神を取り入れてもらいたいと思います。

代々受け継がれた、変えるべきではないものは守、たとえばおもてなしの精神

毎年実施している事業でも、時代に合わせ改善していく破

全く新しい取り組みを作り出す離

どの精神で取り組むべきなのか事業ごとに考えて、構築していつてもらいたいと思います。最終部分に書いていますが、現役の各個人に対して。卒業後のことも考えて取り組んでもらいたいんですね。現状だけを見るとしんどいとか忙しいとかあるかもしれませんが、今だけを見るのではなくて未来を見て行動してほしい。

JC活動の価値は卒業してからわかるものだと思います。やればやるほど自分に返ってくるものも大きくなると信じています。後の人生を豊かにしてくれるので、思い切って取り組んでもらいたいと思います。

最後に次年度の事業構築についてお願いがあります。現在のように感染が拡大し、対面が難しい情勢であったとしてもできる案というのでも考えて上程してください。

WEBでの手法も上程に含める、というように2本立てでお願いします。ここ1年でWEB開催でのバリエーションも増えていきますし、手法の幅も広がってきています。

コロナも3年目になります。絶対にできるやり方も上程に含めてください。委員長に対しては負担をかけることにはなりますが宜しくお願いします。

これから2022年度末まで何卒宜しくお願い致します。

以上で理事長予定者挨拶とさせていただきます。

11. 直前理事長予定者挨拶：(安楽城大作)

皆さん、こんばんは。21年度最初の理事会ということでいつもと違う形で関わることができ新鮮な思いでいます、と言う気持ちに全くならないほど本年度色々とバタバタとしておりまして、未だにどう活動していくかというところを模索中ではあります。

そんな中皆さんにはそれぞれの役割の中で本年度の事業、活動を支えていただきまして誠にありがとうございます。先程今岡予定者もおっしゃられていましたが、この先どういった活動ができるのかというのが、特に今の段階では見えづらいというところになります。ただ

第1回理事予定者会議 議事録

徐々に回復し、活気を取り戻していただろうと思って活動していかなければ、なかなか気が減入るというのがありますので、折角のスタートですので、気持ちだけはしっかり明るい思いでスタートして頂ければなという風に思います。

今日が第1回理事会で、来週が新理事研修、9月例会と私が挨拶をさせていただく場面も多々ありますので、本日は予定者を含めて1年間、理事長として色々大変でした、そんな中やってきて本当に大事だなと思う所をお伝えさせていただきたいと思うんですけれども、やはり困難な状況というのはいつもに比べて本当に一人ひとりがいろいろな仕事といえますか、役割を發揮していただかなければ中々物事が前に進まないというのをすごく感じました。

私も昨年今の今岡予定者と同じ立場で色々組織作りをさせて頂きましたが、それぞれの配役、委員長や副理事長という括りだけではなく、個人的に担って頂きたい役割を考えていたつもりです。しかし中々その役割を伝え切ることができなかったというのが少し反省点です。委員長は初理事の方が多いのでそのまま勢いで、ですとか副委員長は一度理事をしているのでその経験を活かして、ですとか、ざっくりとした今までの流れでの役割というのはあるんですが、やはりそれ以上に個性を活かした役割というのを望んでいました。ただ、そういったことを伝えきれなかったというのを先程申しましたが、その一番の原因が、例えばですが、理事長と委員長が中々話をする機会がないですとか、そういうことが弊害としてあったのではないかなと思います。今はこうして ZOOM で会議をしなければならぬですし、委員会で飲みに行ったり、ざっくばらんに話し合いをする機会がないので、だからこそ個人的な繋がりを大事にしていけないといけない、いけなかったとすごく反省をしています。JC は今60数名で活動していますが、60数名の組織というのは会社で言えば中堅企業、理事メンバーだけで言えば20名弱ということで本当に中小企業と一緒にいます。うちも20名の会社をやっていますが社長と社員が普通に話をする場というのはあります。そういう意味でこういった中々話ができない状況である以上、やはり立場とかを気にせずではないですが、もちろん理事長であったり副理事長であったりを立てていく必要はあるのですが、自分の役割が何であるかというのをはっきりとさせないといけないと思っています。そのためにわからないことがあるのであれば、まずは副理事長に相談し、それでも中々納得できない、どうすればいいのかわからないという時は理事長に連絡して教えて頂くというのも有りなのではないかなと、こういう状況だからこそそういったことが大事なのではないかとすごく今年思っております。色々な建前を大事にする組織ではありますが、そればかりでは本当に大切なことはできませんので、臨機応変に、自分は何が必要であるのかを考えて必要なことはすべてやっていくという感覚でやればこういった困難な状況でも乗り越えていけるのではないかと思いますので、それをエールにさせていただいて直前理事長の挨拶とさせていただきます。

来年1年本当に大変だと思いますが頑張っていきましょう。よろしくお願い致します。

12. 理事長予定者報告：(今岡正英)

資料にて確認

13. 審議事項：(大西貴明)

第1号議案 一般社団法人 尾道青年会議所 2022年度理事会構成図(案)に関する件
(今岡正英)

資料2-1、参照。

理事会構成図のページを御覧ください。次年度は3室の6委員会で構成しております。
委員長・副委員長の欄ご確認いただきまして、ご意見・ご質問等いただければと思います。
ご意見・ご質問等ありますでしょうか？

特に無い様ですので採決に移ります。

*全会一致で承認

第2号議案 一般社団法人 尾道青年会議所 2022年度委員会構成図(案)に関する件
(今岡正英)

資料3-1、参照

こちらは委員会構成図のページを御覧ください。
委員会メンバーの欄を御覧いただきまして、ご意見ご質問等ある方は挙手にてお願いいたします。

こちらも特に無い様ですので採決に移ります。

*全会一致で承認

実行委員長予定者・副理事長予定者・専務理事所信説明

(今岡正英)

資料1-1、1-2、1-3、1-4、1-5、1-6、1-7、参照。

ここで次年度実行委員長を務められます吉田実行委員長予定者、歌副理事長予定者、高橋副
理事長予定者、そして大西専務理事より書いて頂いた所信の思いを述べていただければと
思います。

それでは吉田実行委員長予定者、よろしくお願ひ致します。

(吉田雄太)

こんばんは、65周年特別室実行委員長予定者の吉田です。

改めてよろしくお願ひ致します。

第1回理事予定者会議 議事録

早速ですが次年度、私のテーマは「想い」とさせていただきます。その理由と致しましては、JCに入会しまして約6、7年経ったのですが、その中で様々なことを経験、また見させて頂きました。その中でも何が一番大事かと考えたときにやはり個々の強い想い、確固たる想いを持つことが一番大事なのではないかと思ひまして、今年度このテーマにさせて頂きました。やはりですね、強い想いを持っている方は目標に明確に進んで行けますし、ちょっと想いの弱い方はぶれたり、躓いたりする姿を多く見てきましたし、自分もそういう経験が有りました。

また特に、委員長の皆様は新理事ということもありまして本当に不安だったり焦りも多くあるかとは思いますが、とにかく一度今年度の目標といたしますか、決めた想いをぶれずに、またメンバーに明確にわかるように掲げて突き進んでいってください。

そうすれば必ずや、この1年4ヶ月が素晴らしいものになると思いますので、皆さんで頑張っていきましょう。簡単ではありますが私からは以上です。

(今岡正英)

ありがとうございます。それでは続いて歌副理事長予定者、よろしく申し上げます。

(歌一行)

皆さんこんばんは、地域創造室副理事長を仰せつかりました歌でございます。

私の所信は「意義を問う」とさせていただきます。

内容に関しましてはご一読いただければと思います。

新型コロナウイルスの発生から2022年はもう早3年目を迎えます。

この先の環境がどのように変化していくのか不透明ではありますが、どのような環境下においても尾道青年会議所の活動が尾道のまちに対して求められているのか、地域創造室を預かる身としてしっかりと自分自身に意義を問い続けたいと思っています。

そのためにはまずはどこにも負けない尾道の魅力について確固たる誇りを持つこと。

またそれを尾道のまちに暮らす市民の皆様にも感じていただけるような活動を展開していくことだと思います。

60数名のJAYCEEの力は微力であっても市民の皆様の中に火を灯すきっかけとなり、ムーブメントを起こすことはできるという風に思います。

共創まちづくり委員会では尾道の伝統、文化に触れ、絶やすことなく継承すること。

また、まちの未来創造委員会ではコロナを経たあとも魅力に溢れ輝き続ける尾道の未来を創り上げること。

この両輪でまちに活気を与えたいと思います。

私からの所信への思いは以上となります。ありがとうございます。1年4ヶ月頑張ってください。

第1回理事予定者会議 議事録

(今岡正英)

ありがとうございます。続きまして高橋副理事長予定者、よろしくお願い致します。

(高橋建太)

失礼します。2022年度、人財育成室副理事長予定者を仰せつかりました高橋です。1年4ヶ月、宜しくお願い致します。

所信のテーマですが「熱意」とさせていただきます。我々の活動はまずは地域や市民、尾道JCの現役会員、OB会員から賛同していただくことが必須だと思います。

誰も賛同してくれないような事業は必ず失敗しますし、そんな事業はやりたくもありません。多くの方から賛同していただくために、まずは熱意を持って行動することが必要だと考え、このテーマにさせていただきます。熱意を持って精一杯取り組んでいれば自然と賛同者は増えるはずです。

こういった社会情勢ではありますが、今できることをしっかりと模索しながら、熱意を持って行動することで一人でも多くの賛同者を増やしながら活動を展開していけばいいなという風に考えております。以上、簡単ではございますが副理事長予定者の思いとなります。以上です。

(今岡正英)

ありがとうございます。

それでは最後に大西専務理事、よろしくお願い致します。

(大西貴明)

皆さん、改めましてこんばんは。専務理事を仰せつかりました大西といたします。

1年4ヶ月、よろしくお願い致します。

私は所信のテーマを「信頼」という風にかかせて頂きました。

中身の文章に関してはご一読頂きたいのですけれども、特に委員長であったり、今後事業をやる上で様々な信頼関係を築いていくことが大事だと思い、こういったテーマとさせていただきます。

我々正副メンバー間の信頼関係であったり、街の諸団体や人との信頼関係であったり、委員長副委員長間、また委員長と委員会メンバーとの信頼関係であったり、そういったことが、今こうやって本日も皆様が集まれない中で信頼関係を築いていくのは従来の年よりも難しいのですが、この信頼関係が失われれば委員会運営も難しくなってくるのではないかと思います。

ですので例年以上にコロナ禍というのは特に委員会運営をする上でも電話であったりこういったZOOMミーティングであったり、夜の委員会ができないのであれば昼に集まってやったりですとかいろいろな工夫が、特に委員長は必要なのかなと思います。

第1回理事予定者会議 議事録

ですが、こういった工夫を何度も繰り返していく上で皆様との、委員会メンバーとの信頼関係を築いていって委員会運営をうまくやって頂きたいなと思います。

特に委員長にお伝えしたいのですが、この尾道青年会議所を背負って先頭に立っていくのは我々だという気合を持って活動していただきたいと思います。そして我々理事メンバーが尾道を変えてやると、そういった情熱を街に伝播していけるような活動を1年4ヶ月していきたいと思いますので、皆さん、よろしくお願い致します。以上です。

(今岡正英)

ありがとうございます。

今実行委員長予定者、副理事長予定者、専務理事予定者の所信の思いを述べて頂きました。今後委員長の、委員長所信というものを委員長の方には書いて頂くことになります。私の所信と副理事長予定者、実行委員長予定者の所信をよんでいただいて、それを汲み取って頂いて委員長所信を書いて頂きたいと思います。是非よろしくお願いいたします。

第3号議案 一般社団法人 尾道青年会議所 2022年度所管業務(案)に関する件

(今岡正英)

資料4-1、4-2 参照。

まず最初に全体的なことを私からお話させていただきます。

例会の担当月に関しましては事前に割り振りをしております。年間前後半1回ずつになるようにしています。

次年度は65周年を迎えるということで65周年特別室を設けています。実行特別委員会と総務広報委員会を同室として設けています。

記念式典の開催日が通常の例会と違うのですがその日に例会を行うということで、実行特別委員会は5月例会を式典開催日に行うということで決定しております。

そしてまちづくりに関わる委員会2つを同室として地域創造室としております。

共創まちづくり委員会とまちの未来創造委員会という名前にしております。

まちの未来創造委員会というのはいわゆるビジョン系と呼ばれる委員会ですが、こちらブロックアカデミーの事業も担当して頂きます。例年は無いのですが11年ぶりにアカデミーの担当ということでこちらの委員会で担当して頂きます。

人づくりに関わる委員会2つを同室として人財育成室としております

青少年育成委員会と会員拡大委員会です。こちらの所管業務につきましては例年と近い内容となっております。会員拡大委員会ではしまなみ3JCの担当というのがイレギュラーかと思いますがそれ以外のところは例年通りとさせていただければいいのかなと思います。

各委員会所管業務をご確認いただきまして、いくつか思うこともあろうかと思えます。

これから忌憚なきご意見・ご質問をいただければと思います。

第1回理事予定者会議 議事録

この質疑応答では予定者という単語は長くなるので省かせて質疑をさせて頂こうと思います。

最初に室ごとに質問をお願い致します。

3つの室終わりましたら最後に全体でもう一度質問がないかお伺いしますので、そういった流れで質疑応答させて頂こうと思います。

それではまず最初に65周年特別室からご意見ご質問等よろしくお願い致します。

「65周年特別室」

(加藤雅崇)

今岡理事長に質問です。

所信の中で事業に関する様々なキーワードが書かれているという風に感じました。

私が65周年の記念事業を担当するにあたり一番注目したのが「子どもたちが何十年先にも記憶に残るような事業」というキーワードでした。その方向性に対してご意見を頂けますでしょうか。

また今岡理事長が体験された事業の中で「子どもたちが何十年先にも記憶に残る」ののではないかと感じられた事業を教えてください。

(今岡正英)

方向性ですが65周年の委員会は記念事業がメインになります。この記念事業はこれという決まった形はないです。周年の年によって異なった内容で行われてきている。方向性としては私の所信に書いているまちのため、まちのひとのためになるようなことであればどのような内容でもいいと思っています。周年の場合ですので比較的大きな事業というのはやりやすい委員会であると思います。ですのでその所信の部分からブレなければ加藤副実行委員長の思う事業を考えて進めていただければと思います。

次に子どもたちにとって記憶に残る事業ということですが、これまでの事業で子どもたちが参加した事業という意味では教育の委員会ですて頂いた寺子屋ですね。こういった事業は記憶にも残りやすいですし、子どもたちも喜んで、また保護者の方々にも喜んでいただいた事業で無いかと思います。

そうした意味ではこういった事業が良い事業ではないかと思っています。

(村上康)

今岡理事長に質問させていただきます。

所信の中で「守破離」ということで、JCに関しては守破離はそれぞれ守・破・離に重きを置く事業があるということなんです、今まで経験された中で守破離のそれぞれを代表するような事業を教えてください。

第1回理事予定者会議 議事録

もう一つが所信の中で今岡理事長の郷土愛の強さを感じました。JCの活動をする中尾道のために活動するのに強い思いは必要だと思います。JCのメンバーでも郷土愛が強い方もいれば弱い方もいると思いますが、所信の中で今岡理事長が「帰郷した際の感動」、「近くにある宝」と記載がありますがどのような宝に何故感動したのかを教えてください。

(今岡正英)

ひとつ目ですが守破離の事業に関しましては守の部分でいうと例会行事、その中でも特に新年例会や卒業例会、OBを交えた例会が「守」に当たるのではないかと思います。このおもてなしの精神が非常に大事なことで今後も変えずに継承していくべき物であると思います。

破のところですが、これは事業の中で良い事業というのは毎年行われて、その中で改善しながら行っている物が当てはまると思います。例えば学校に出向いての事業ですね。防災の事業ですとか、学校に出向いての事業は非常にJCらしくて良い事業だと思いますし、求められてきたからこそ数年間やってきたものだと思います。でも全く同じで実施するのではなく、自分の色であったり、より良いものというのを加えてやってきたことだと思うので、ここが破に当たる事業であると思います。

離に関してはこれまでやってきていない全く新しい事業ということなので例えば私が入会したときのディズニーを呼んでの事業ですとか、副委員長の際に経験した駅前に野外映画館を設営して行った星空映画祭というのがあったんですが、そういった事業、全く他の団体や人たちがやらないような事業をやってきましたのでこれが新しい取り組みだなと思います。なのでここが離に当てはまる事業であると思います。

2つ目の質問ですが尾道のどんどこになぜ感動したのかということですが、私は大阪に9年間いたんですがその時は本当に建物しかなく、それに見慣れてしまえばそれまでですが、尾道の景色とは違うなと思いながら生活していました。

いざこちらに帰ってきた時に電車から見た海と橋と山と街波と島々、そういう景色を見て、こんな景色を見れるところは他にないのではないかと思います。その時に改めて自分の育った街はいい場所だなと感じて、それを所信を描く時に思い返して、序盤の部分に書きました。見慣れてしまえばそれまでですが一度離れると戻ってきて良さがわかる。そこに大きな感動抱いた記憶があったので所信に記載しました。

質問する際には一つずつに区切ってもらいますよう、よろしくお願い致します。

(村橋聡)

今岡理事長予定者の素敵な所信を拝読させて頂きました。

「守破離」の3つの精神は状況により使い分けの判断とありますが、今岡理事長は次年度の尾道青年会議所のカラーを出すにあたってこの3つのうちどれにウェイトを置くのか、ま

第1回理事予定者会議 議事録

た総務広報委員会には3つのうちどの精神にウェイトを置いてほしいというのがあるのかを教えてください。

(今岡正英)

青年会議所全体としては65周年という事業があるのでそこがウェイトが高いと考えています。そうすると「離」に重きを置くことになると思います。新しいことを生み出すことにウェイトが高くなると思います。

総務広報委員会に対しては、どちらかという縁の下の力持ち、会を支えるという仕事内容が多いと思いますので「守」の部分が多いとは思いますが。ただ守だけではなく例会行事などは自分の色も出せるので、ただこれがいいことだからと同じことをするのではなく、守の部分を破にして頂くということも良いと思っていますのでその辺りを考えて活動していただければと思います。

(大池慎三)

当委員会の委員長が卒業予定者ということもあり、ご質問をさせていただきたいのですが、理事長が先程おっしゃりましたが今年新年例会を私が担当させていただき、おもてなしというキーワードを元に構築させていただいたのですが、来年度は卒業例会を担当するにあたっておもてなしの他に理事長が取り入れてほしいという要素はあるでしょうか。

(今岡正英)

おもてなしは気持ちよく来てもらうための設えだと思いますが、JCとして来てよかったと思えるようなこと、言ってしまうと意外性のようなものがあるとよりいいのではないかと思います。おもてなしの精神が良いというのは当たり前でやらなければならないことですのでそこにプラスアルファ、意外性があるような、これはさすがJCだなと思えるようなことをしていただければと思います。その内容に関しては大池副委員長が設営することになると思いますので色をだして、つけていってもらえればと思います。

(加藤雅崇)

新年例会について伺わせてください。

現役会員とOBの方に新しい理事長として見てもらうことになると思いますが特に何を見て頂きたいか、感じてもらいたいかを教えてください。

(今岡正英)

まずOBの方に関しては、JCらしく失礼のない対応は大前提であると思います。新年例会に関しては、私の思いや一年を通しての考えをOBの皆さんにもお伝えをするという場であると思いますので、その思いが伝わりやすいような設営をしてもらいたいとは思っています。

第1回理事予定者会議 議事録

このコロナのご時世ですので派手にはできないと思っていますし、しなくても良いと思っています。私の思いが伝わりやすいように、というのと新しい組織の紹介でもありますので皆さんの思いが伝わりやすいようなそうした設営をして頂きたいと思います。

「地域創造室」

(平岡良之)

冒頭でも今岡理事長からコロナ禍での活動ということをとおっしゃられていましたが、ここ数日のニュースで11月を目処に緩和して行くという報道もありましたが、次年度以降まちが、日本がそれを少しずつでも許す状況であれば積極的に外での活動は可能でしょうか。

(今岡正英)

社会情勢が緩和していけば外での活動はしていくべきであると考えています。

できるのでしょうかと言われると社会情勢が許せばできると思います。

最初の話であったように2本立てで必ずできるような設えで考えておけばどちらでも対応できると思いますので、基本は自分の思う、すべきだと思うことを考えて、それが外での大体的な事業であるのであればWEBでの事業も考えてやっていただければと思います。

(平岡良之)

ありがとうございます。

もう一点、先程も2本立てでWEBでも開催できるように上程を、とおっしゃられていましたが、例えば私が対外的な上程を考え、もう一つWEBでの事業を考えるとなった場合、内容が全く別のものになっても大丈夫なのでしょうか。

(今岡正英)

目的、背景、特に目的が変わっていなければ手法は変えてもいいと考えています。目的は統一したまま手法は2パターンと言う形で事業構築をして頂きたいと考えています。

(村上直弘)

現在コロナ禍の中まちの未来という大変有意義な、難しい問題はあれど、やりがいのある委員会に配属されたと思っております。その中で、理事長の思っている尾道らしいという特徴を教えてください。

(今岡正英)

私の考える尾道らしさはまちの一体感だと思っています。これと他の地域にない景色、土地柄もですね。

第1回理事予定者会議 議事録

一体感という話でいうと、企業間のつながりも強いと考えています。まちの中で企業のつながりがあれば、まちの一体感も出ますし、その繋がりがあることによって、尾道市であったり商工会議所だつたりと団体との結びつきが強くなると思います。これが尾道らしい特徴の一つではないかなと考えています。

土地柄に関しては特徴のある街ですのでそこをうまく活用できる事業等を考えられたら尾道らしい事業ができるのではないかと考えています。

(村上直弘)

もう一点なんですが、先程村橋委員長が言われた「守破離」に関しましてまちの未来を作るにあたって、すべて当てはまると思いますがどれを強調していくべきでしょうか。

(今岡正英)

担当していただくのがビジョンとアカデミー事業ですのでどちらかというところ「離」に近い事業ではないかと思っています。新しいものを生み出すというのをメインに考えて事業構築をしていただきたいと思っています。

(村上直弘)

最後に、先程おっしゃられたように離が重要ということですが、既存のものではなくまだ日の目を見ていないような物を新しく発信するということを考えて展開していけばいいということではないでしょうか。

(今岡正英)

はいその通りです。

(内海洋平)

委員会名と事業名に「共創」という言葉が使われていますが、そこにどういった意味、思いを込められているかをお聞かせください。

(今岡正英)

「共創」という文字はあえてつけました。

共に創るという意識を今まで全員で共有して持つてはなかったのではないかと思います。まちづくりの事業のときに自分の力だけ、委員会だけでやろうとしても中々実行しにくいという状況があったと思います。共に創るというのは青年会議所のメンバー、まちや団体を巻き込んで共に創り上げる、そういった考えでもいいのではないかと考えています。なので自分や委員会単位であったり、単独で作るのではなく、共に巻き込んで創り上げてほしいという思い、共創という言葉をつけ加えました。

第1回理事予定者会議 議事録

(加藤雄大)

来年もこのコロナ禍という難しい状況の中で活動していくのではないかと思います、その中で活動するにあたって、今岡理事長がメンバーのみなさんにどういう考え方、マインドで活動してもらいたいというのがあれば教えて下さい。

(今岡正英)

コロナの中でモチベーションが上がりにくいという状況はあると思うんですが、なんとか自分で奮い立たせるというのも重要だと思います。今はこういう状況ですが将来のことを考えると今何もやらないのはもったいないことだと思います。

自分を奮い立たせて、なんとかできることを探す、街のため、人のためになるようなことを探して、見つけて、構築していくという、そういう気持ちで臨んでほしいと思います。

(加藤雄大)

当委員会はアカデミーを事業として仰せつかっているんですが、尾道らしい特徴を活かしたアカデミー事業をと所信にも書いていただいておりますが、折角尾道の地で開催することなので、尾道の地、街にもインパクトの有るような事業構築をイメージしていくほうがいいのではないかと考えているのですがそのあたりに関しまして今岡理事長のイメージを教えてください。

(今岡正英)

他のエリアから来た方々が尾道でしかできないよねと思うような内容を考えていって欲しいと思います。例えばですが海、山、川、島、橋などがあると思いますがこういったものを活かした事業はインパクトのある尾道らしいとは感じる。内容に関しては委員長と副委員長の方でどういった物がいいのかを考えてもらえれば良いと思いますが、そういった特徴を他の LOM のメンバーに見てもらうのも重要ではないかと思います。

また、アカデミー事業なのでその目的さえブレなければ街の人々に対しても楽しんでもらえるような設えができるのであればそのほうがより良いと考えます。

(加藤雄大)

最後に、アカデミー開催時期は6月ということですが、いろいろな状況下において変更などもあるかと考えているのですが伸びるという可能性もあるのでしょうか。

(今岡正英)

今ブロックにて調整中ですので伸びる可能性もあります。現状6月11日、12日で予定が組まれています、2転3転しているので最終決定まではいっていません。ですので変更の

可能性はあります。

「人材育成室」

(半田祐喜)

所信に青少年育成というのがあるのですが「青少年」というのは具体的にどの辺りの年齢をターゲットにしているのでしょうか。

(今岡正英)

基本的には小学生です。子供の多感な時期というので小学生を想定しています。

(半田祐喜)

もう一点なんです。理事長の所信で子どもたちの「県外への流出はなんとしてでも避けなければいけません」という文章がありますが、理事長も大阪で9年過ごされ、尾道に帰ってこられた際により郷土愛を感じられた、俯瞰してみることで尾道の魅力を感じることができたとあるのですが、流出を避けるとは具体的にどういった意味になるのでしょうか。

(今岡正英)

流出を避けるというのはずっと尾道が好きで残っている人、私みたいに出て戻ってくるという方両方を指しています。流出を避けるために根本的に必要なことは、尾道がいいまちだと思えばずっと残るとい人もいれば、高校大学等でどうしても出なければならなかった場合も戻ってこようと思えると思います。

流出を避けるためには尾道の良さを知ってもらうということが大切だと思いますので、そうしてもらえそうな事業構築をしていただければと思います。

(沼尾一)

今岡理事長に質問です。

ズバリ来年度の入会者数をどれぐらいで考えられているのでしょうか。

(今岡正英)

入会者数というのは明確な数字はあえて掲げてはいません。ただメンバーの減少を防ぐという観点からいくと最低でもその年に卒業する人数は入れる必要があります。ですので来年は13名卒業するので最低13名以上を見込んで活動していただければと思います。

(沼尾一)

拡大対象を今岡理事長がどのように考えられているかを伺いたいのですが、今までどちらかと言いますとJCの構成メンバーを見ていると経営者が多いなと私自身感じています。し

第1回理事予定者会議 議事録

かしながら今までご卒業された OB の先輩の方々であったりとか、入会されている方のたかにも経営者以外の方も入られているのが現状としてありますが、大枠の中でもっと経営者以外の方に目を向けて経営側のサポートであったりそこに近しい考え方で動く方をどんどん積極的に声を書けたり勧誘していくことに関して、JC メンバーとしての今までの形とは少し変わってくるのか、それともそういった形でもどんどん拡大対象として、尾道のまちを活性化するという観点で、活力としてのメンバーをどんどん増やすことに意義があるのか、色々な考え方がそれぞれあると思いますが今岡理事長はどのように考えられているでしょうか。

(今岡正英)

拡大対象なんですけど、縛りは設けるつもりはないです。意欲のある方であれば拡大の対象になってきます。ただその中で優先してほしいと思うことがありまして、OB の方のご息ご令嬢がまだまだいるのに入っていないと感じました。なので私のお願いの一つとして OB の方々一人ずつ見て行って、30 歳ぐらいで息子さん、娘さんがいるなとなったらそちらの方を重点的に当たって欲しいと思います。OB のご息ご令嬢でなくとも自営業でやられて新たに起業された方でも、どちらの方が入会して来られても活性化にはなりますし、それはいいのですが、こちらの働きかけの最初のステップとして OB の方々というのをもう一度見直して拡大活動をしていていただきたいと思います。

(島田昌広)

「守破離」という考え方、これは拡大活動をする上でも大切な考え方だと思っています。手法に関してはメンバーで知恵を出し合っていくべきだと考えているのですが拡大の基礎となる考え方、受け継がれてきたものがあれば教えて頂きたいと思います。

(今岡正英)

私自身も拡大の委員長をさせて頂いたので受け継がれてきたものはあります。歴代拡大委員長が集まったの話というのもありましたが、拡大候補者は入るまでリストアップされていますが、その人や入っていなかった方へのアプローチはこれまでもされています。アプローチの方法や内容、相手の状況、そういった情報の伝達は先輩方から引き継いでもらいたいと思っています。そして今後のために次の世代に引き継いでもらいたいと感じています。

「全体」

(加藤雅崇)

2本立てで上程するという部分がかなり今年とは異なると思っています。まず2本立てで上程を行ったとして、人を集めてリスクがあるものをやるか、リスクをとら

第1回理事予定者会議 議事録

ないかの判断はどのようにされるのでしょうか。またどのタイミングでされるのでしょうか。

(今岡正英)

判断基準はガイドラインに従って行われます。

基本としては緊急事態宣言下においても実施できる内容で事業を作りたいと考えています。ただし、相手側がいるような事業である場合、JC側ができると判断しても相手ができないと判断した場合は中止となります。ですので相手であったり社会情勢であったりが許さない状況であれば開催できません。

その判断基準の日にちについては今は明確にはお答えできません。

状況次第ですぐに判断できるかもしれないしギリギリまで待つかもしれないです。

(加藤雅崇)

2つ上程を上げるということは、基本的に延長はしないと考えるべきではないのでしょうか？例えば例会は2つ案を出してリスクがない方を取れば延期はないと思うのですが、65周年の事業をするにあたって、リスクがあるがどうしても私がしたいもの、リスクがないものの2つを上程したとして、8月にリスクのある事業を予定していたが、状況が悪いので9月に延長してリスクがある方をやりたいという場合、延長してリスクがある方を行うということも可能なんではないでしょうか？

(今岡正英)

基本的にはできるものを一緒に上げていただくので延長はありません。上程を2つ上げるというよりは一つの上程の中に2個手法を入れ込むという認識でいただければと思います。

(加藤雅崇)

最後に、少しずつ世の中がコロナ禍から通常の動きに戻ろうという流れができつつあると思います。この2種類の手法で上程を考えるという手法は1年間丸々やり続けるのか、それとも状況次第では解除するというのも考えているのでしょうか？

(今岡正英)

解除は想定せずに1年間通して考えてください。

解除できそうになってもまたこういう状況になる可能性はずっとついてまわると思うので。もし一番考えているものがコロナ感染拡大状況においてもできるものであれば1つで大丈夫です。

(沼尾一)

コロナ禍で緊急事態宣言に入った状態で会員拡大は難しいという状況が今年にあったと思いますが、平時で緊急事態宣言が出ていないけれども、マスクをしなければならない、会食をしてはいけない、そんな状態になっている中でJCとして直接訪問しての拡大活動をしてもいいのか、それともオンラインでやるべきなのか、その辺りの緊急事態宣言外での線引、ガイドラインがないと思うのですが今岡理事長がどのように考えられているか教えてください。

(今岡正英)

確かに拡大活動に関してのガイドラインは設けていませんが状況によると感じています。同じ状況でも受け取る側の温度差はあると思います。会いに来てもいいと言う人もいれば今はちょっとという人もいます。ですので拡大対象者の考えや、会社の考えを聞き取り、状況を聞いてその都度判断してもらえないかと思っています。やはり拡大はどうしても会ったほうが確率は上がると思うので直接訪問というのが一番いいと思うのですが、相手の状況もあると思いますのでそこは先方に確認しながら活動してもらえればと思います。

その他ないでしょうか？

それでは無いようですので3号議案採決にうつります。

所管業務安に関する件賛成の方は挙手をお願いします。

*全会一致で承認

審議を可決しましたがこのあと質問・疑問点出てくるかもしれません。その場合は実行委員長、副理事長を通して質問していただければと思いますのでよろしくお願い致します。

第4号議案 2022年度 出向者に関する件

(今岡正英)

出向者に関する件に付きまして、事務局に一任をさせて頂いても大丈夫でしょうか。

委員長の皆様は自動出向となりますので、自分自身と後1名か2名同じ委員会から一緒に出向する方が必要となりますのでその方も想定しておいてください。

こちらに関しまして質問等ありますでしょうか。

ないようですので採決に移ります。

*全会一致で承認

14. 協議事項：(大西貴明)

特に無し。

15. 報告依頼事項：(大西貴明)

特に無し。

16. 連絡事項：(中島裕一郎)

今年度総務広報委員会、小西委員長より新理事研修についてご報告があります。

(小西琢真)

新理事研修についてご案内させていただきます。

メールで案内はしていますが、9月13日の月曜日の新理事研修はオンライン形式となっております。

今年始めて当選された初理事の方には色紙に自分の意気込みを書いていただき、掲げながら意気込みについて説明してもらいます。色紙は事務局においてありますので一人一枚持って帰って自分の思いの丈を書いてください。

事務局連絡

- ① 「新型コロナウイルス感染の拡大防止を鑑みたガイドライン」を本年度の物を参考に作成しました。明日メールにて配信します。今後も皆様の意見を頂きながらブラッシュアップしていきますのでよろしくお願い致します。
- ② 委員長予定者の皆様には上程書等のフォーマットを送付しますので今後の所信や事業の上程にご利用ください。
- ③ 9月29日に室合同委員会をオンラインにて開催します。時間は19時からです。今日か明日中には委員長から委員会メンバーの皆様へお声がけする際によりしくお願い致します。また案内に関しましては後日メールにて送信します。
- ④ 理事就任承諾書は事務局にて準備しておりますので事務局に来ていただいて提出していただきますようよろしくお願い致します。その際に認印がいりますのでご準備をよろしくお願い致します。新任の理事の方は住民票が必要となりますので認印とともに持ってくるようよろしくお願い致します。

17. 監事予定者講評

(島田元太)

監事予定者の島田です。まずは今岡理事長予定者率いる2022年度第1回理事予定者会議がWEBという形では有りましたが無事開催できたことを嬉しく思っております。先程も何度も質問や意見で出ておりましたが、まだまだコロナウイルスが猛威を奮っている中で事業構築になってくるとは思いますけれども、この予定者の時期にしっかりと方向性を決めて置く必要があるかなと思いますので、先程今岡理事長が言われたようなことも考えながら構築に進めていただけたらと思います。また再度今岡理事長の所信というものを読み直していただきまして、理解を深めるということも忘れずに行っていただければと思います。いろんなヒントが所信にはたくさん入っておりますので、皆さんの読み方次

第1回理事予定者会議 議事録

第ではまた考え方も変わってくると思いますので忘れずに行っていただけたらと思います。皆さんが2022年度理事という自覚をしっかりと持っていてこれからも励んでいただけたらと思います。以上、簡単ではありますが監事講評とさせていただきます。お疲れさまでした。

(高升純)

皆様2022年度監事予定者の高升です。これから1年4ヶ月どうぞよろしくお願いいたします。今岡理事長予定者を始め理事予定者の皆様、改めましてご当選おめでとうございます。私の方から皆さんに一言だけ伝えさせてください。それはコロナ禍の今だからこそJC宣言の文章を思い返してほしいです。あえてここで読ませていただきます。

JC宣言

日本の青年会議所は

希望をもたらす変革の起点として

輝く個性が調和する未来を描き

社会の課題を解決することで

持続可能な地域を創ることを誓う

まさにこの文章の中に、この今の状況をJCが打開しなければならないという文章がまさに入っていると思います。それを踏まえて本日今岡理事長予定者から上がっています所信の方を熟読していただいて、そして今できることが何なのかというのを本気で考え、必死になっていただきたいと思います。理事として選ばれた責任を自覚し、周りを巻き込み、未来を作るのは俺達だという気概を持って1年4ヶ月走り抜けていただけたらと思います。以上です。お疲れさまでした。

18. 次回開催日の確認：(大西貴明)

第2回理事予定者会議

10月18日(月)19時より。尾道国際ホテルにて。

上程締切：10月6日(水)

19. 閉会：(大西貴明)

20. 点鐘：(オンライン形式での開催のため割愛)

第1回理事予定者会議 議事録

議長	今岡正英	印
署名人	島田元太	印
署名人	高升純	印
作成者	安保大輔	